

令和2年度病虫害発生予察注意報第4号

令和2年7月16日
愛知 県

作物名：イネ
病虫害名：いもち病（葉いもち）

1 発生地域 全域

2 発生程度 多い

3 注意報発令の根拠

- (1) 7月上旬に県内52地点、155ほ場で実施した巡回調査において、葉いもちの発生ほ場率が、4.5%（平年2.5%、前年1.3%）、**発病株率が0.26%（平年0.11%、前年0.03%）**と過去10年間で発生ほ場率は3番目、**発病株率は最も高かった。**
- (2) イネいもち病発生予察用シミュレーションプログラム（BLASTAM）を用いた葉いもち感染好適日の判定によれば、7月1日から15日までの**感染好適日が愛西で5回、岡崎で4回、蒲郡で7回、新城で2回と過去10年間で最も多い（表1）。**
- (3) 名古屋地方気象台7月16日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い見込みで、本病の発生に好適な条件である。
- (4) 7月第1半旬、第2半旬の積算日照時間は、それぞれ10.1時間、3.2時間と少なく、平年の半分以下である。

4 防除対策

- (1) いもち病を対象とした育苗箱施薬を実施していないほ場、常発地または葉色の濃いほ場では、発生状況に注意し、早期発見に努める。
- (2) 葉いもちの発生を認めた場合は速やかに表2を参考に防除する。
- (3) 補植用の置苗は伝染源となりやすいので、直ちに処分する。

表1 B L A S T A Mによるいもち病（葉いもち）感染好適日の推定結果（7月1日～7月15日）

日付	尾 張				西三河		東三河			中山間	
	愛西	名古屋	大府	南知多	豊田	岡崎	蒲郡	伊良湖	豊橋	新城	稲武
7/ 1	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/ 2	—	—	—	—	—	9	●	—	9	●	④
7/ 3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/ 4	5	6	7	4	8	5	5	3	3	7	8
7/ 5	●	—	2	●	3	●	●	1	—	—	—
7/ 6	2	—	●	5	●	6	3	—	1	3	9
7/ 7	6	—	9	3	③	5	●	—	—	—	7
7/ 8	●	—	—	7	●	4	9	—	—	8	●
7/ 9	●	4	●	5	●	●	●	7	6	9	9
7/10	●	●	●	4	●	6	6	8	6	7	8
7/11	●	—	5	—	③	8	③	—	—	7	●
7/12	—	—	③	③	②	●	●	6	8	●	●
7/13	—	—	—	—	—	—	?	—	—	?	—
7/14	6	8	3	●	3	●	●	7	●	④	—
7/15	—	7	—	●	9	—	●	—	—	4	●

- ：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、いもち病発生の好適条件が現れた）
 - ①：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
 - ②：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
 - ③：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃の範囲外）
 - ④：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が比較的長く、その平均気温に必要な湿潤時間より短い）
- 数値：湿潤時間が10時間未満の場合の湿潤時間数
 —：好適条件なし（いもち病発生の好適条件が現れなかった）
 ?：判定不能

表2 イネいもち病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	FRACコード
コラトップ粒剤 5	葉いもちに対しては、 初発10日前～初発時 穂いもちに対しては出穂30日前から5日前まで	散布	2回以内	16.1
オリブライト1キロ粒剤	出穂10日前まで（ただし、収穫45日前まで）	散布、 無人ヘリコプターによる散布	1回	11
ブラシンフロアブル	収穫7日前まで	散布	2回以内	U14

使用回数には、同一有効成分を含む剤の使用回数を含む。
 農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室
 電話 0561-62-0085 内線471